

論文内容要旨

論文題名

Factors associated with a reduction in the Quality of Life of patients with chronic hepatitis C treated by LDV/SOF therapy

LDV/SOF 療法を施行した C 型慢性肝炎患者の QOL 低下に関連する因子の検討

薬学専攻 薬物治療学 四十物 由香

【背景・目的】

Ledipasvir/Sofosbuvir(LDV/SOF)は interferon(IFN) や Ribavirin(RBV)を含む治療に比べ, 効果や安全性, QOL が良好であると臨床試験で示されている. しかし, 一部の患者は過去に受けた IFN 療法で QOL 低下を経験していることから DAA 治療に消極的である. CHC 患者の治療の意思を決定する因子として QOL が重要であると報告されていることから, 実臨床における QOL 情報は患者の治療の決断を促し効果的な治療に繋がる可能性がある. また, LDV/SOF 療法を受けた患者の一部では QOL が低下する. 事前に QOL が低下する患者を選別することが可能となれば, 患者に生じた問題を早期に把握し迅速な対応が可能となる. そこで, 実臨床における LDV/SOF 療法を施行した CHC 患者の QOL 評価と LDV/SOF 療法を施行した CHC 患者の QOL 低下に関連する因子の検討を行った.

【方法】

2014 年 1 月 15 日～2017 年 11 月 30 日に日立総合病院にて LDV/SOF で治療した CHC I 型又は C 型代償性肝硬変の外来患者を対象とした. QOL 評価は肝疾患特異的尺度である CLDQ を用いた. 過去 2 週間にどれくらいの頻度で症状を感じたかを 1 点 (いつも) ～7 点 (全然ない) の 7 段階で評価し, LDV/SOF 療法患者(141 名)と Simeprevir(SMV)/Peg-IFN/RBV 療法患者(28 名)の CLDQ スコアを比較検討した. また, スコア 7 未満を QOL 低下と定義し, LDV/SOF 療法患者における QOL 低下の関連因子をロジスティック回帰分析により検討した.

【結果】

実臨床において, LDV/SOF 群の総合スコア(中央値)は, SMV/Peg-IFN/RBV 群に比べ有意に高かった(6.59 vs 6.38, $p=0.007$). 特に, 腹部症状(7.00 vs 6.33, $p=0.023$), 全身症状(6.80 vs 6.00, $p<0.01$), 活動(7.00 vs 6.67, $p=0.014$), 感情機能(6.75 vs 6.44, $p=0.003$) のドメインにおいて LDV/SOF 群の方が SMV/Peg-IFN/RBV 群に比べ有意に高かった. さらに多変

量解析の結果, LDV/SOF 療法患者における QOL 低下に有意に関連する独立した因子として ALT23U/L 以上（オッズ比 4.380 : 95%信頼区間 1.39-13.76）が抽出された（ $p<0.05$ ）。

【結語】

本結果は, LDV/SOF 療法の QOL 情報を医療従事者や CHC 患者に提供することが可能となり, CHC 患者の治療の決断を促し効果的な治療に繋がる可能性がある。また, LDV/SOF 施行前に ALT が高い CHC 患者に対し, QOL を意識した面談を実施することで, QOL 向上に貢献できる可能性が期待される。

1185 文字（1200 字以内）